事後評価報告書

1.　基本情報日

（１）実行団体名：特定非営利活動法人　海の達人
（２）実行団体事業名：障がい児等の体験格差解消事業
（３）資金分配団体名：公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（略称：Ｂ＆Ｇ財団）
（４）資金分配団体事業名：障害児等の体験格差解消事業
（５）事業の種類：草の根活動支援事業
（６）実施期間：2020 年 6 月～2023 年 3 月
（７）事業対象地域：三重県内。その他協力団体のある他県。

2.　事業概要

●TOC

「海の達人」障がい児等の体験格差解消事業

社会課題（現状）

児童養護施設の子供を対象とした調査では、6割の子供がこれまで水辺の自然体験を経験したことがないことが明らかになっている。一方で、障がい児の実施状況に関しては、調査自体されていない現状である。水辺の自然体験活動は、社会性を育み自尊心を高めるなど、子供の成長に欠かせないものであるが、身体的・家庭的な理由、団体間の連携不足等により、水辺の自然体験機会の少ない子供が存在し「体験格差」が生じている。

障がい児支援施設や児童養護施設では、運動やスポーツなどの体験活動は実施しているものの、水辺の自然体験はほとんど実施されていない。水辺の自然体験は、指導スキルや安全管理体制が必要であるが、それらを習熟する指導者の確保や、適切な器材・施設の不足等により、積極的な推進が図られていない現状にある。

社会課題に健常児と障害児の交流についても追加。

指導者の確保はどうするのか

真逆になっているか？

中長期アウトカム（理想の姿や社会）

三重県津市において、障がい児や児童養護施設、特別支援学校の子どもを対象に水辺の自然体験活動が推進され、子供の成長を促し、社会性や自立心を育むとともに、**健常児との交流や団体間の新たな連携等を通じて、**子供たちの支援の環境づくりとインクルーシブ社会のモデル地域となることを目指す。

すると？　そのために？

アウトカム（仮）

すると？　そのために？

短期アウトカム（事業による変化）

①障がい児や児童養護施設、ひとり親家庭等の子供が、水辺の自然体験を通じて、社会性や自立心などの向上が見え始めている状態となる。

②障がい児の保護者が、子どもを積極的に、水辺の自然体験プログラムに参加させる状態となる。

③障がい児支援施設や児童養護施設のスタッフが、水辺の自然体験プログラムを団体の日常的な活動とする状態となる。

④学校や団体等で、水辺の自然体験に関する理解が深まるとともに、水辺の自然体験推進団体に留まらず、新たな連携・協力・支援を行う団体等が増える状態となる。

すると？　そのために？

アウトプット（事業の結果）

1．障がい児や児童養護施設等の子供が、水辺の自然体験に参加できる状態となる。

2．障がい児の保護者が、水辺の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。

3．障がい児支援施設や児童養護施設等のスタッフが、水辺の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。

4．学校や団体等が、水辺の自然体験に連携・協力・支援する状態となる。

活動（実施内容）

①障がい児等に対する水辺の自然体験として、海辺の自然体験教室、セイラビリティ活動を行う。

④休眠預金等からの助成により、自分たちの事業に合った障害児等の水辺の自然体験に必要な器材等を整備する。

コロナ対策器材追加

②障がい児等と健常児が水辺の自然体験を通じた交流事業として、バリアフリーまつりを開催する。

③障がい児支援団体等に広報活動・参加者募集活動を行う。

⑤ボランティアスタッフなどの外部サポーターの募集等を行うともに当団体で必要に応じ研修等を行う。

⑥障がい児等の水辺の自然体験に関する実施事例・先進事例を広く社会に発信する。

⑦水辺の自然体験に参加した子供に対し、事業の満足度や意識の変容等に関するアンケートおよびヒアリング調査を行う。

①事業によって解決を目指す社会課題と想定される直接対象グループ

障がい児支援施設や児童養護施設では、運動やスポーツなどの体験活動は実施しているものの、水辺の自然体験はほとんど実施されていない。水辺の自然体験は、指導スキルや安全管理体制が必要であるが、それらを習熟する指導者の確保や、適切な器材・施設の不足等により、積極的な推進が図られていない現状にある。具体的な対象団体としては、セイラビリティ河芸、障害者支援施設、障害児団体、児童養護施設、特別支援学校・学級、幼稚園など。

②事業の概要（中長期アウトカム・短期アウトカム・活動）

●中長期アウトカム

海の達人では、三重県津市において、障がい児や児童養護施設、特別支援学校の子どもを対象に水辺の自然体験活動が推進され、子供の成長を促し、社会性や自立心を育むとともに、健常児との交流や団体間の新たな連携等を通じて、子供たちの支援の環境づくりとインクルーシブ社会のモデル地域となることを目指す。

●短期アウトカム

1．障がい児や児童養護施設、ひとり親家庭等の子供が、水辺の自然体験を通じて、社会性や自立心などの向上が見え始めている状態となる。
2．障がい児の保護者が、子どもを積極的に、水辺の自然体験プログラムに参加させる状態となる。
3．障がい児支援施設や児童養護施設のスタッフが、水辺の自然体験プログラムを団体の日常的な活動とする状態となる。
4．学校や団体等で、水辺の自然体験に関する理解が深まるとともに、水辺の自然体験推進団体に留まらず、新たな連携・協力・支援を行う団体等が増える状態となる。
5．新型コロナウィルス感染予防対策として、活動の参加者を減らし実施回数を増やす。参加者や関係者が感染リスクを意識し、安全対策を講じた事業とする。

③出口戦略

従来より障がい児等が参加する海のバリアフリーまつりやセイラビリティ活動がある。事業を通して海上保安庁や中部運輸局、地元企業、社会福祉協議会と連携しており、本事業においてもこれを活用していく。対象となる子どもたちについては、日頃、水辺の自然体験活動を希望している地域の障がい者団体・施設に対し、パンフレットや SNS を用いて声がけを行っていく。この他にも県内外の特別支援学校の受入れも行い、車いすでも乗船可能な構造の「ハウスボート」を用いたクルージング体験なども行っております。付添や保護者の方からも理解いただいており、今後も海に触れ合う機会が少ない方々への提案を継続していく。

具体的出口戦略しては、次のとおり。

・セイラビリティ河芸の支援
・海のバリアフリーまつり参加者へのセイラビリティ活動の周知
・前記記載の各団体・学校等に対するチラシの配布など
・特別支援学校等の教職員に対する体験会等の実施
・関連企業を通じた事業の周知

3. 事後評価実施概要

（1） 実施概要

① どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定し評価を実施したのか

本来はセイラビリティ活動に継続的に参加するお子様の変化を記録する予定でしたが、対象児がクラブを卒業し、その後対象となる児童の入会がなかった。コロナウィルス感染拡大と重なりバリアフリーまつりも 2020 年、2021 年と開催できなかったため、体験会に参加いただいた個人や団体からの声を評価基準とさせていただいた。

② どんな調査で測定したのか

参加者からのヒアリング、第 15 回バリアフリーまつりでは開催後にアンケートを実施した。

③ 調査結果をどのように深掘りし価値判断をしたのか

ヒアリング等による参加者の生の声から、参加者の反応や提供している活動内容への要望などを伺うとともに、3 年ぶりに開催した海のバリアフリーまつりのアンケートの結果から、事業全般についての価値判断を行っている。

（2） 実施体制（内部/外部、評価担当役割、氏名、団体・役職）

〔内部〕NPO 法人海の達人理事長・・大野木博久、海の達人メンバー　阪本純子、三井圭司

〔外部〕セイラビリティメンバー・・三重大学 坂本竜彦教授

4. 事業の実績

4 - 1 インプット（主要なものを記載）※最新事業計画書のインプット欄から転記してください。

（1） 人材（主に活動していたメンバーの人数や役割など）

内部：合計 15 人　セイラビリティ活動や体験活動等の指導など

外部：合計 20 人（セイラビリティ参加者、ヨットインストラクターなど）

セイラビリティ活動や海洋活動(バリアフリーまつりを含む)の補助

（2） 資機材（主要なもの）

アクセスディンギー（303）1 艇、クリアカヤック 2 艇、ライフジャケット 25 着、ボッチャ 2 セット

テント 5 張り、休憩場所設備　2 セット　会議用テーブル 14 台

（３） 経費実績　助成金の合計（円）

① 契約当初の計画金額

通常枠 4,302,000 円(評価関連経費 217,000 円含む)、コロナ支援 1,315,000 円、　合計 5,617,000 円

② 実際に投入した金額

5,377,219 円　　5,617,000 円―返金額　239,781 円

（４） 自己資金（円）

① 契約当初の自己資金の計画金額

￥1,107,260

② 実際に投入した自己資金の金額と種類

1,105,296 円　　1,107,260 円- 自己資金返金額　1,964 円

③ 資金調達で工夫した点

当団体の支援企業である㈱ダイイチに依頼して資金調達した。

４-２活動とアウトプットの実績

（１） 主な活動

1-1　障がい児等に対する水辺の自然体験として、海辺の自然体験教室、セイラビリティ活動を行う

1-2　障がい児等と健常児が水辺の自然体験を通じた交流事業として、バリアフリーまつりを開催する

2-1　障がい児支援団体等に広報活動・参加者募集活動を行う。

3-1　障がい児等の水辺の自然体験に関する実施事例・先進事例を広く社会に発信する。

3-2　水辺の自然体験に参加した子供に対し、事業の満足度や意識の変容等に関するアンケートおよびヒアリング調査を行う。

4-1　ボランティアスタッフなどの外部サポーターの募集等を行うともに当団体で必要に応じ研修等を行う。

4-2　休眠預金等からの助成により、自分たちの事業に合った障害児等の水辺の自然体験に必要な器材等を整備する。

5-1　ヨットだけではなく、気軽に参加できるクルーズの体験会実施。
新型コロナウィルス感染予防対策を講じた、密にならない少人数での実施

（2）アウトプットの実績

4-1　ボランティアスタッフ及び外部サポーターの研修はコロナの影響もあり実施できなかった。

【アウトプットに関する記載項目】

① 指標
② 初期値
③ 目標値
④ 目標達成時期（事業計画書に記載した時期）

(3) アウトプット	**指標**	**初期値/初期状態**	**目標値／目標状態**	**目標達成時期**
1．障がい児や児童養護施設等の子供が、水辺の自然体験に参加できる状態となる。	①水辺の自然体験に参加した対象となる子供の数 ②水辺の自然体験を見学した対象となる子供の数 ③水辺の自然体験に参加・見学した対象となる子供の満足度 ④水辺の自然体験に協力したサポーターの数	①地域全体で 10 人 ②地域全体で 10 人 ③満足度調査（ベースライン調査） ④地域全体で 30 人	①地域全体で 60 人（初期値から 6 倍） ②地域全体で 30 人（初期値から 3 倍） ③満足度調査（エンドライン調査を行いベースラインと比較する） ④地域全体で 90 人（初期値から 3 倍）	2023 年 2 月
2．障がい児の保護者が、水辺の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	①水辺の自然体験を見学した保護者の数 ②水辺の自然体験を見学した保護者の満足度	①地域全体で 20 人 ②満足度調査（ベースライン調査）	①地域全体で 60 人（初期値から 3 倍） ②満足度調査（エンドライン調査を行いベースラインと比較する）	2023 年 2 月

３．障がい児支援施設や児童養護施設等のスタッフが、水辺の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	①水辺の自然体験を見学したスタッフの数 ②水辺の自然体験を見学したスタッフの満足度	①地域全体で 20 人 ②満足度調査（ベースライン調査）	①地域全体で 60 人（初期値から 3 倍） ②満足度調査（エンドライン調査を行いベースラインと比較する）	2023 年 2 月
４．学校や団体等が、水辺の自然体験に連携・協力・支援する状態となる。	①連携・協力・支援する学校・団体等の数 ②水辺の自然体験推進団体以外で連携・協力・支援する学校・団体等の数 ③水辺の自然体験を見学した学校・団体等の数	①地域全体で 20 ヵ所 ②地域全体で 10 ヵ所 ③地域全体で 10 ヵ所	①地域全体で 40 事業者（初期値の 2 倍） ②地域全体で 20 事業者（初期値の 2 倍） ③地域全体で 20 事業者（初期値の 2 倍）	2023 年 2 月
5．新型コロナウィルス感染予防対策として、活動の参加者を減らし、実施回数を増やす。密にならない活動場所の設置、機材の追加。	①体験会の実施回数	①年間 12 回	②年間 20 回	2023 年 2 月

⑤ 実績値

アウトプット	目標値/目標状態	実績値
１．障がい児や児童養護施設等の子供が、水辺の自然体験に参加できる状態となる。	①地域全体で 60 人（初期値から 6 倍） ②地域全体で 30 人（初期値から 3 倍） ③満足度調査（エンドライン調査を行いベースライ	①地域全体で 31 人 ②地域全体で 13 人 セイラビリティの活動の見学等を含む ③満足度調査

	ンと比較する） ④地域全体で 90 人（初期値から 3 倍）	B&G 財団が実施したアンケート調査では「子供の包括的ストレス反応尺度」と満足度を含むと考えられる「生活充実感尺度」については、事前と事後の比較により向上している傾向が見られた。 ④地域全体で 69 人
２. 障がい児の保護者が、水辺の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	①地域全体で 60 人（初期値から 3 倍） ②満足度調査（エンドライン調査を行いベースラインと比較する）	①　地域全体で 10 人 セイラビリティ活動の見学。 ②満足度調査 保護者へのインタビューにより調査している。保護者の声として「子供の活動を見学していてこのような活動を子供にさせることができてよかった」という声が大半であり、また障がい者施設の方からは「見ていて子供の表情が明るくなるのが分かり、継続して活動に参加させたい」などの声があり、活動参加に対する満足度が高いことが伺える。
３. 障がい児支援施設や児童養護施設等のスタッフが、水辺の自然体験について、その有効性を認識している状態となる。	①地域全体で 60 人（初期値から 3 倍） ②満足度調査（エンドライン調査を行いベースラインと比較する）	①　地域全体で 23 人 見学ではなく協力者(体験者)となった。 ・社会福祉法人 AJU 5 人 ・三重大学　10 人 ・セイラビリティ伊勢　6 人 ・セイラビリティ津　2 人 ②　満足度調査 インタビュー形式で実施。

		協力いただいた団体や参加していただいた団体からは「バリアフリーまつりの集客がすごい」「障がい者に対するボランティア活動は海の達人のこの活動だけなので、これてうれしい」、「障害をもつ方からイベントに参加できる機会を提供していただいたことがありがたいと言われた」などの声をいただいている。 また、バリアフリーまつりのスタッフからは「障害を持つ方とのかかわりが持ててこのような活動に参加できてよかった」という声があった。 協力団体や参加団体、また事業スタッフからの声から、満足度は高いと判断できる。
４．学校や団体等が、水辺の自然体験に連携・協力・支援する状態となる。	①地域全体で 40 事業者（初期値の 2 倍） ②地域全体で 20 事業者（初期値の 2 倍） ③地域全体で 20 事業者（初期値の 2 倍）	①　地域全体で 20 事業者 ・バリフリまつりの協力団体名 　・マリーナ河芸 　・㈱ダイイチ 　・四日市ヨットクラブ(YYC) 　・ヤマハ 　・海上保安庁 　・中部小型船安全協会ほか ②　地域全体で事業者　　20 事業者 　・㈱第一楽器 　・NPO 音の和 　・㈱セリオ

		・津市社会福祉協議会 ・三重県ほか ③ 特別支援学校との連携協力を予定していたが、予定していた特別支援学校は 3 校をは、コロナのためキャンセルとなっている。2022 年でコロナも 3 年目を迎えているが、夏場のコロナピーク時が活動時期と重なったため、キャンセルとなってしまった。
5. 新型コロナウィルス感染予防対策として、活動の参加者を減らし、実施回数を増やす。密にならない活動場所の設置、機材の追加。	②年間 20 回	① 2022 年度 10 回 ・障がい者はコロナで重度になるということもあり、活動回数は予定まで伸びなかった。 ・また、三重県、津市、各団体からコロナの状況により活動を自粛するよう依頼があったため、計画どおりの活動ができなかった。

4 - 3 外部との連携の実績

バリアフリーまつりでは、予てより行政や企業、大学へ協力依頼をしており、連携を図っていた。
その中でも自然環境リテラシー学を開設している三重大学とは、生物資源学部 坂本竜彦教授の協力をいただき、同リテラシー学を学ぶ学生を体験格差解消事業に派遣していたたくまで連携が進んだ。事業に協力いただく前には、活動場所である津市のマリーナ河芸において学生を対象とした海洋レクリエーション等の研修会も実施した。
また各団体よりボランティア派遣をいただき、運営にもご協力いただいた。（津市ボランティアセンター、三重大学、三重県身体障害者総合福祉センターなど）近郊の授産施設にもお声掛けをし、出店もいただいた。

5. アウトカムの分析

5－1. アウトカムの達成度

（1） 短期アウトカムの計画と実績

【短期アウトカムに関する記載項目】

① 短期アウトカム
② 指標
③ 初期値／初期状態
④ 目標値／目標状態
⑤ 目標達成時期

（2）短期アウトカム	指標	初期値/初期状態	目標値／目標状態	目標達成時期
1．障がい児や児童養護施設、ひとり親家庭等の子供が、水辺の自然体験を通じて、社会性や自立心などの向上が見え始めている状態となる。	①水辺の自然体験に継続して参加を希望する障害児等の人数 ②社会性の育成や自立心の向上など、意識・行動の変容	①子供の継続参加に対する意識（ベースライン調査） ②子供の社会性などに対する意識・行動（ベースライン調査）	①子供の継続参加に対する意識（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する） ②子供の社会性などに対する意識・行動（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する）	2022 年 11 月

２．障がい児の保護者が、子どもを積極的に、水辺の自然体験プログラムに参加させる状態となる。	①水辺の自然体験に継続して参加を希望する障がい児等の保護者の人数 ②保護者から見た子供の社会性の育成や自立心の向上など、意識・行動の変容	①保護者の継続参加に対する意識（ベースライン調査） ②保護者から見た子供の社会性などに対する意識・行動（ベースライン調査）	①保護者の継続参加に対する意識（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する） ②保護者から見た子供の社会性などに対する意識・行動（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する）	2022 年 11 月
３．障がい児支援施設や児童養護施設のスタッフが、水辺の自然体験プログラムを団体の日常的な活動とする状態となる。	①水辺の自然体験に継続して参加を希望する障がい児等が所属する施設等スタッフの人数 ②施設等のスタッフから見た子供の社会性の育成や自立心の向上など、意識・行動の変容	①施設スタッフの継続参加に対する意識（ベースライン調査） ②施設スタッフから見た子供の社会性などに対する意識・行動（ベースライン調査）	①施設スタッフの継続参加に対する意識（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する） ②施設スタッフから見た子供の社会性などに対する意識・行動（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する）	2022 年 11 月
４．学校や団体等で、水辺の自然体験に関する理解が深まるとともに、水辺の自然体験推進団体に留まらず、新たな連携・協力・支援を行う団体等が増える状態となる。	①水辺の自然体験の推進に積極的に取り組む・つながっている学校や団体の数 ②水辺の自然体験推進団体以外で、新たにつながっている団体の数 ③水辺の自然体験に対する学校や団体関係者の意識	①地域全体で１０ヵ所（ベースライン調査） ②地域全体で 5 ヵ所（ベースライン調査） ③学校や団体関係者の意識（ベースライン調査）	①地域全体で 20 ヵ所（初期値より 10 カ所増加） ②地域全体で 10 ヵ所（初期値より 5 カ所増加） ③学校や団体関係者の意識（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する）	2022 年 11 月

5．新型コロナウィルス感染予防対策として、活動の参加者を減らし実施回数を増やす。参加者や関係者が感染リスクを意識し、安全対策を講じた事業とする。	①新型コロナウィルス感染予防対策を講じた新たな事業様式を実施した状態。	①新型コロナウィルス感染予防対策に対応した状態。	①新型コロナウィルス感染予防対策に創意工夫を加え、効率的な事業を実施している状態。	2022 年 11 月

⑥ アウトカム発現状況（実績）

短期アウトカム	目標値/目標状態	実績値/実績状態
1．障がい児や児童養護施設、ひとり親家庭等の子供が、水辺の自然体験を通じて、社会性や自立心などの向上が見え始めている状態となる。	①子供の継続参加に対する意識（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する） ②子供の社会性などに対する意識・行動（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する）	①コロナもあり継続参加する子供があまりいなかったので保護者や参加団体関係者にヒアリングを実施した。子供たちは海での活動が楽しいこともあり、また参加を希望する子が多いとのことだが、団体として頻繁に連れて来れないこともあり、子供たちの希望に中々添えない現状が見えている。 ②B&G 財団で実施したアンケートでは、社会性をみるものとして「生き抜く態度尺度」と「学校生活スキル尺度(コミュニケーション)」についての調査項目があるが、アンケートからはどちらも有意義な向上は見ら

		れなかった。ただし、活動中に我々が個々の参加者を見ていると、時間の経過とともに行動がきびきびしてきたり、ヨットの操船方法について聞いてくるなど、コミュニケーション力が向上しているように感じている。
２．障がい児の保護者が、子どもを積極的に、水辺の自然体験プログラムに参加させる状態となる。	①保護者の継続参加に対する意識（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する） ②保護者から見た子供の社会性などに対する意識・行動（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する）	①やはりコロナで障害児団体等の子供たちの参加がないため、2022 年に実施した海のバリアフリーまつりの障害のある子の保護者との話では、以前にもこのまつりに参加して子供が非常に喜んでいたので、今回、３年ぶりの開催と聞いたので大阪から来ましたとの話を伺い、子供の喜ぶ姿をみれば親としてはできるだけ参加させたいという気持ちが見て取れる。また、本まつりのアンケートからも、このイベントの継続実施を望む声が多いことからも、海での活動の機会が提供されれば、参加希望者は多いことが推測される。 ② イベントでの保護者の声からは、また来たいという声は多いが、子供の社会性についての意識や行動についての変化については聞くことができなかった。

３．障がい児支援施設や児童養護施設のスタッフが、水辺の自然体験プログラムを団体の日常的な活動とする状態となる。	①施設スタッフの継続参加に対する意識（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する） ②施設スタッフから見た子供の社会性などに対する意識・行動（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する）	①学校の教員を対象とした体験会では、教員がこういう体験を子供たちにさせたいと言っていたが、コロナにより中止となることが多かった。名古屋にある授産施設のスタッフは数回参加しているが、コロナにより県をまたいての移動ができないことから、ここ３年中止となっており、非常に残念がっている。このようなことからも施設スタッフの継続参加に対する意識は高いと推察される。 ②前記同様コロナにより活動の中止が多いことから、子供の社会性についての意見は確認できなかった。
４．学校や団体等で、水辺の自然体験に関する理解が深まるとともに、水辺の自然体験推進団体に留まらず、新たな連携・協力・支援を行う団体等が増える状態となる。	①地域全体で 20 ヵ所（初期値より 10 カ所増加） ②地域全体で 10 ヵ所（初期値より 5 カ所増加） ③学校や団体関係者の意識（エンドライン調査行いベースライン調査と比較する）	①水辺の自然体験に積極的に取り組む学校や団体の増加は、2 団体に留まった。(三重大学、三重県身体障害者総合福祉センター) ②水辺の自然体験以外で積極的につながった団体は、やはり前記の 2 団体。 ③学校や幼稚園の教員の体験会でのヒアリングから、海の活動への参加意欲は非常に高いことが伺えるが、この 3 年間はほとんどコロナにより中止となっており、活動後の意見を聞くことが出来ていない。

５．新型コロナウィルス感染予防対策として、活動の参加者を減らし実施回数を増やす。参加者や関係者が感染リスクを意識し、安全対策を講じた事業とする。	①新型コロナウィルス感染予防対策に創意工夫を加え、効率的な事業を実施している状態。	①2020 年、2021 年と 1 回の参加者を減らして回数を増やして実施しようと試みたが、コロナの影響が大きく活動の展開に中々至らなかった。2022 年になり 3 年ぶりとなる活動のメイン事業である海のバリアフリーまつりを開催することができ、新たにスマホでのアンケート調査を盛り込むなど、次の活動に向けた手法を取り入れた。本まつりの来場者は、2 日間で 743 人と非常に多かったが、消毒だけでなくボッチャなどの屋内イベントには入場者数を調整してコロナ安全対策を実施した。乗船時以外はマスクも着用していたこともあり、多くの人数が集まったがコロナ感染は確認されなかった。今後も状況に応じたコロナ安全対策を実施して、活動を継続していく。

（２）アウトカム達成度についての評価

5－2. 波及効果（想定外、波及的・副次的効果）

セイラビリティ活動では、特定の障がい児が継続的に参加するまでには至らなかった。

また特別支援学校からは体験のご予約をいただいたものの、コロナ感染拡大でキャンセルとなった。

ただ体験会や一度ご利用経験がある先生方からは好評で、ぜひ今後も参加したいというお声をいただいている。
2020 年、2021 年と中止した海のバリアフリーまつりは、3 年ぶりに 2022 年に開催できたことで、再開を喜ぶ参加者の声も多く、800 人を超える来場者となり、またわざわざ大阪からも参加しに来てくれた親子もいて、スタッフ一同、4 年目以降の活動の糧となった。

5－3. 事業の効率性

障害のある方を対象とした水辺で実施する体験格差解消事業は、慣れた指導スタッフや乗りやすい器材が必要であり、休眠預金事業による助成金により器材整備を行えたこと、また三重大学の学生など今後の活動につながる人材育成も進められたことなどから、効率的に資金を使うことができた。また、コロナ支援により、障害者や参加者が待機する日陰の場所を作るためのテント等を整備したことで、バリアフリーまつりのような大型イベントにも大いに活用することができた。
参加団体や教職員を対象とした海の活動の体験会は好評であることから、4 年目以降効率性を考え、体験会などを開催しながら事業の実施に結び付けていきたい。

6. 成功要因・課題

本事業を継続的に実施していくための成功要因としては、三重大学と連携したことにより、人材育成をすすめることができたことである。
子供たちを指導する際に、熟練した我々のスタッフも必要であるが、若い学生さんがお兄さん、お姉さんとして子供に接してくれれば、子供たちのモチベーションも高まり、リピーターとして再度の参加につながることが大いに期待される。その学生さんたちを引き付けるため研修会を開催したことが工夫としてあげられるのではないか。
社会課題に貢献したこととして、特別支援学校の先生からは、普段表情の少ない生徒がクルージングを体験した際には明らかに表情が明るくなり、気持ちに変化があったことがわかったとお声をいただいた。また、海辺を散歩したり水に触れたりするだけでも、気持ちの変化が見られたとのこと。
コロナウィルス感染拡大により特別支援学校の体験活動はキャンセルとなってしまったが、継続して利用したい旨はご連絡いただいている。
また、今後の課題としては、参加した子供の変化の情報を保護者から余り受け取ることができなかったので、保護者からの情報をうまく集め、よ

りよい活動につなげることと考えている。

7. その他深掘り検証項目（任意）

バリアフリーまつりに協力いただいた団体スタッフからのヒアリングでは、障がい者の方と活動する機会をいただきありがたい、という声をいただいている。本まつりのアンケート結果を含め、インクルーシブな社会活動に意義を感じている方も結構いることが分かり、今後のボランティア募集の際にうまく結び付けていきたい。

8. 結論

コロナウィルス感染拡大により予定していた活動の全ては実施に至らなかったものの、関係者からのご紹介もあり僅かながら体験会を実施することができた。また 3 年振りとなるバリアフリーまつりでは、初の試みとして QR コードによる参加者の事前登録システムを導入し、参加者のデータをとることもできた。障がい者（障がい児）の参加は少なかったものの、開催後のアンケートではバリアフリーまつりに関する率直なご意見や感想を聞くことができ、また障がい者もマリンスポーツを楽しめる場所があるということを広く周知できたのではないかと思う。

ここ 2～3 年で本まつりへの協力会社に入社したスタッフに関しては、バリアフリーまつりを経験しておらず、セイラビリティ活動は継続的に実施できていたものの、障がい者との関わりについて学びの機会が少なかった。
2022 年はバリアフリーまつりを経験し、どういった点に配慮すべきなのか、また体験をした人々がどのような気持ちを持ってくれるのか等、勉強になったようだ。

特別支援学校は県からの活動制限により活動のキャンセルが続いたが、すでに来年度の予約もいただき、県外からの利用も含め継続的な活動を行う予定。

反省点としては、障がい児の活動案内を特別支援学校やバリアフリーまつり開催に重点をおいていたため、コロナウィルス感染拡大により活動実施が困難になった際に、別の団体を集めることに苦労した。今後は放課後デイサービスなどとも繋がりを持ち、対象を広げて周知活動を行っていきたい。

8-1事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準までに少し改善点がある	想定した水準にあるが一部改善点がある	想定した水準にある	想定した水準以上にある
（1）事業実施プロセス		○			
（2）事業成果の達成度				○	

（1）、（2）それぞれ1箇所を選択する。

8-2事業実施の妥当性

三重県内の障害児や児童養護施設、特別支援学校の子供たちを主な対象として、自然体験活動を提供し、社会性や自立心など子供の成長を育み、健常児との交流等を通じてインクルーシブ社会のモデル地域になることを中長期のアウトカムとしており、そのための活動の一つが海のバリアフリーまつりやセイラビリティである。特に多くの人数を集める海のバリアフリーは、障害のある方も多く参加しており、その方たちに海洋活動の楽しさを知ってもらうことで、セイラビリティ活動への参加につなげたり、本まつりにボランティアでの参加を促したりとその効果は大きいと感じている。このような我々の活動を通じてインクルーシブ社会に近づくことが可能であることから、本事業は適切であると判断している。

9. 提言

事業継続については、既存の団体・企業様には活動に参加いただくなど日頃より交流を図っており、ご理解いただけている。
我々のような活動であれば、周知活動の対象を広げ、例えば福祉活動に力をいれている企業などにお声掛けし繋がりを持つことや体験会の運営・資金面も含め、協力いただける事業者を増やすことが提言としてあげられる。

10. 知見・教訓

団体や学校を引き付けるには、写真や言葉の説明も必要であるが、一回の体験に勝るものはない。ぜひ団体の代表者や担当者、また学校であれば教職員(できれば校長先生)に体験していただくと、その楽しさと安全管理、指導法を理解していただくことができ、それが子供たちの参加につながっていく。ぜひ体験会を定期的に開催し、周知してみてはどうか。

11. 添付資料

1、2022 年海のバリアフリーまつり報告書およびアンケート調査
2、セイラビリティ河芸の会員募集チラシ・申込書
3、中日新聞　記事

以上

第15回

海のバリアフリーまつり

In Marina KAWAGE

報　告　書

2022年
10/1(土)・10/2(日)

特定非営利活動法人 海の達人

https://www.umi-tatsujin.net

この報告書および配布CD-ROM内のファイル情報を許可無く開示・複写・配布することを禁じます。

◆はじめに

本年度で第15回目の『海のバリアフリーまつり』は、両日とも穏やかな気候の下、障がい者・高齢者・授産施設・健常者を問わず、多数の方々にご来場いただき、盛大に終えることができました。

今年は3年ぶりに開催をさせていただきました。各団体の皆さまには現状の社会的状況を踏まえた体験の実施や実演のご協力など各種ご調整、ご協力をいただきましたことを改めて御礼申し上げます。

敷居が高いと言われがちな海の世界で、海のバリアフリーまつりでは「海」というフィールドが「障がい者と健常者の差がなく楽しんでもらえる場」であることを体験を持って広く周知していただき、「笑顔あふれるお祭りのようなイベント」を目標に企画し実施して参りました。

お陰さまを持ちまして、毎回、障がいの有無、老若男女問わず多くの方々にご来場いただき、興味を持って各イベントにも参加していただいてきました。

年々、継続開催への期待とご要望の声が増し、スタッフ一同うれしく受け止めております。これもひとえに、温かくバックアップしてくださった皆様あってのことと、深く感謝致します。

開催回数も15回を越え、障がいをお持ちでもボート免許を取得して、釣りに・クルージングにと楽しんでいる方や、ヨットでセーリングを楽しみつつ、レースにも参加したりと、「マリンレジャーを満喫」していただいている方が増え、当初の目標達成において確かな手応えを感じております。　次回からも、さらに障害の有無、老若男女問わず、多くの方々にマリンスポーツの振興と海のある生活を企画し、提案してまいります。

今後とも、海のバリアフリーまつりの発展にご理解とご支援・ご協力をいただければ、これに勝る喜びはございません。どうぞ、よろしくお願い致します。

特定非営利活動法人 海の達人

「第15回 海のバリアフリーまつり」実行委員会

①開催実績
②開催概況
③お客様の声

◆DATA 1

開催日時：2022年10月1日（土）10:00～16:00 〈晴〉
2022年10月2日（日）10:00～16:00 〈晴〉

回　　次：第15回

会　　場：マリーナ河芸

主　　催：NPO法人 海の達人

来場者数：743名

◆DATA 2

後　援： 国土交通省中部運輸局　第四管区海上保安本部　三重県　津市
(一財) みなと総合研究財団　(一財) 日本海洋レジャー安全・振興協会
(公財) B＆G財団　白塚漁業協同組合　NPO法人海に学ぶ体験活動協議会
(株)中日新聞社　三重テレビ放送(株)　三重エフエム放送(株)
(公社)三重県障害者団体連合会　(一財)岐阜県身体障害者福祉協会

協　賛： (株)マリーナ河芸　(株)ダイイチ　(株)第一楽器　ヤマハ発動機(株)
ヤマハボート安全会・マリーナ河芸安全会

協　力： 四日市海上保安部　(公社)中部小型船安全協会　NPO法人おとのわ
NPO法人セイラビリティ三重（伊勢・津・河芸）
NPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンター　(社福)AJU自立の家
(一社) ハンザ・セイリング・ジャパン　(株)セリオ　B＆Gかわげ海洋クラブ
三重トヨペット(株)
(順不同)

◆DATA 3

開催スケジュール

		10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00
10月1日（土）	通常イベント	ハンザ乗船体験			ハンザ乗船体験			
		ボート・ヨット乗船体験			ボート・ヨット乗船体験			
		シーカヤック乗船体験			シーカヤック乗船体験			
		ポッチャ体験			ポッチャ体験			
					ボートペインティング			
		作業所の展示即売会／パネル展／出展コーナー／バリフリグッズ展示						
	音楽イベント	おとのわプロデュース　音楽行事						
					藤田典人ピアノコンサート			
10月2日（日）	通常イベント	ハンザ乗船体験			ハンザ乗船体験			
		ボート・ヨット乗船体験			ボート・ヨット乗船体験			
		シーカヤック乗船体験			シーカヤック乗船体験			
		ポッチャ体験			ポッチャ体験			
					海の運動会			
		作業所の展示即売会／パネル展／出展コーナー／バリフリグッズ展示						
	音楽イベント	おとのわプロデュース　音楽行事						
					藤田典人ピアノコンサート			

◆開催意図

障がい者・健常者が共に……

- 海の魅力を知る
- マリンレジャーを楽しむ
- ふれあい、協力しあえる

…… 機会と場所の提案

◆目的Ⅰ

障がい者、健常者がふれあい、協力しあえるイベントに

全てのイベントは障がい者と健常者が共に楽しむものとして、運営スタッフ、ボランティアスタッフは、一般参加者たちに積極的に声を掛けていき、ふれあい、協力しあえる雰囲気をつくっていきます。

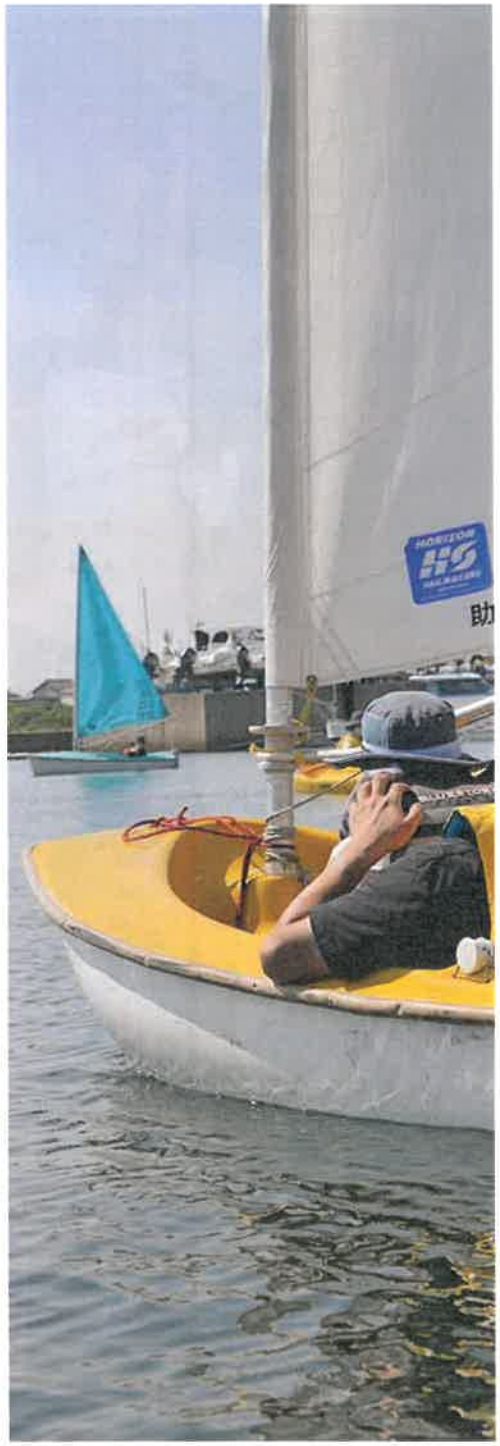
健常者の参加者には乗船サポートを手伝ってもらう、障がい者の参加者にはサポートの欲しい内容を自分からアピールしてもらうよう働きかけるようにし、積極的に交流をするきっかけづくりをしていきます。

◆目的Ⅱ

海の魅力を伝える
マリンレジャーを楽しむ機会・場の提供

セイラビリティ活動をはじめ、海で楽しむ元気な障がい者たちの活動を紹介することで、インドアで過ごしがちな障がい者の方たちに屋外で遊ぶことの楽しさをアピール、海辺での遊びに誘います。

また、マリーナ河芸がバリアフリー対応マリーナとして「スロープ付き桟橋」「乗船リフト」等の設備を備えていること、またバリアフリー仕様の船(ボート免許教習艇)や、障害があっても支障なく乗れる「アクセスディンギー」の存在を周知し、海のバリアフリーの現状をアピールするとともに、これらを利用した海の楽しみ方を提案していくことを目指します。



◆目的Ⅱ

セイラビリティ活動とは

障がい者のためのセーリング支援活動としてイギリスで始まったもの。自分自身でヨットを操作することを通じて、障がい者をはじめ、子ども、高齢者の自立心と自信を生み出すことができると評価を得てきました。

マリンスポーツを通じて伊勢の海のよさを再認識してもらいたいという思いと、障がい者を含む青少年、子ども、高齢者が楽しく活動できる場を作りたいという思いからマリンスポーツを愛する仲間たちが集結。2002年にセイラビリティ伊勢、2006年にセイラビリティ津、そして2007年には新たにセイラビリティ河芸＆AJUが発足。伊勢湾内をフィールドに、活動の輪を広げています。

◆来場者数

14日(土)　313名
15日(日)　566名
計　879名（延べ人数）

日付	9/14	9/15	計
スタッフ・ボランティア	41	52	93
一般体験乗船	272	514	786
合計	**313**	**566**	**879**

ボランティア：セイラビリティ河芸、伊勢、津／津市社協／マリン業界スタッフetc.

本年は天候にも恵まれ地域住民の方をはじめ遠方からも多くの方にご来場いただきました。また多数の一般ボランティアの方にもご協力をいただき円滑にイベントを開催することができました。初めて来場されたお客様もたくさんおり、マリンレジャーの楽しみ方や海の魅力を知り、海を身近に感じていただけたかと思います。

◆来場者数

乗船体験参加者 計 1,220名

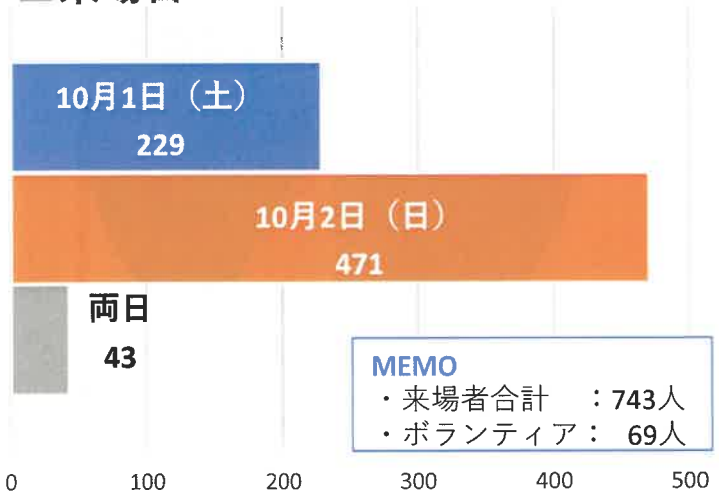
日付	10/1	10/2	計
ボート	87	187	274
ヨット	28	46	74
ハウスボート	41	63	104
ハンザ	70	312	382
カヤック	103	283	386
計	**329**	**891**	**1,220**

体験イベント参加者　計60名

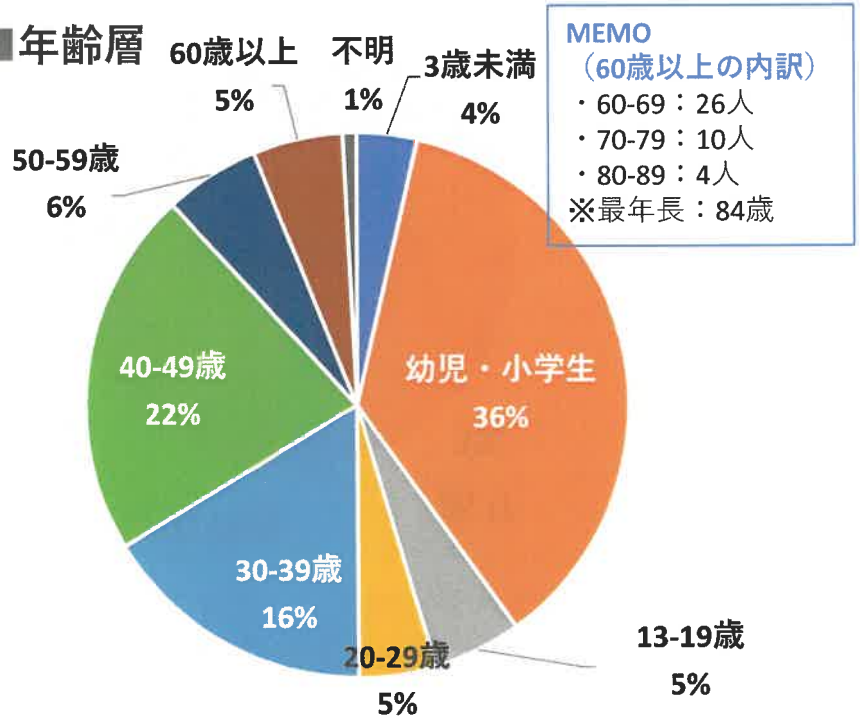
日付	10/1	10/2	計
海の運動会	-	40	40
ボートペインティング	20	-	20
計	**20**	**40**	**60**

◆来場者分析

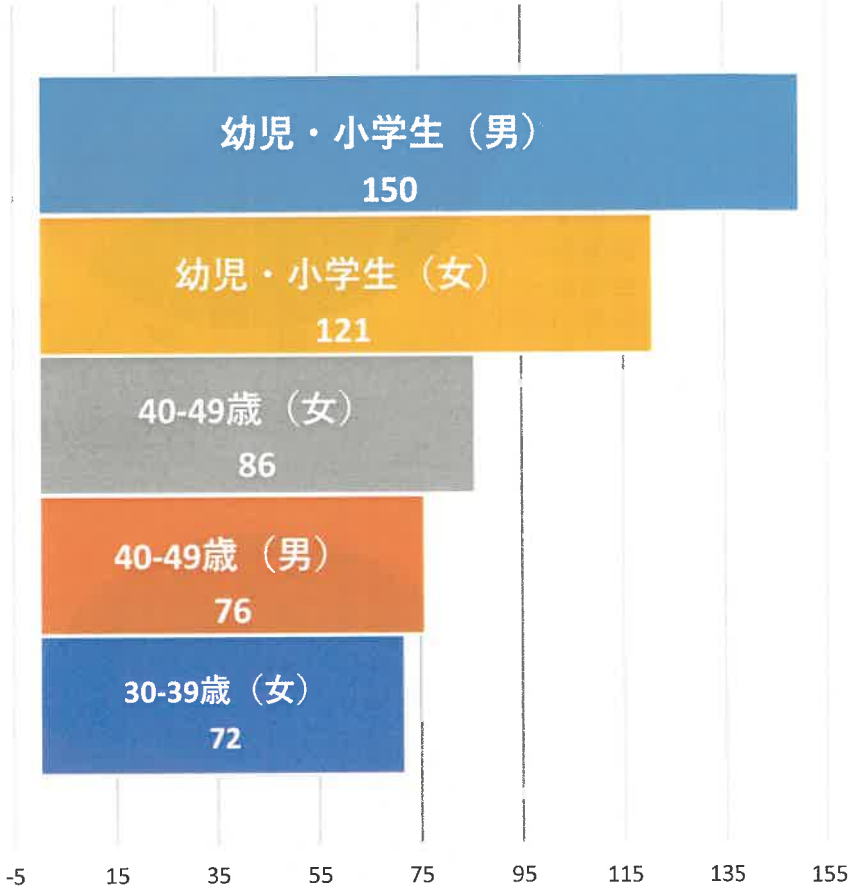
■来場日



■年齢層

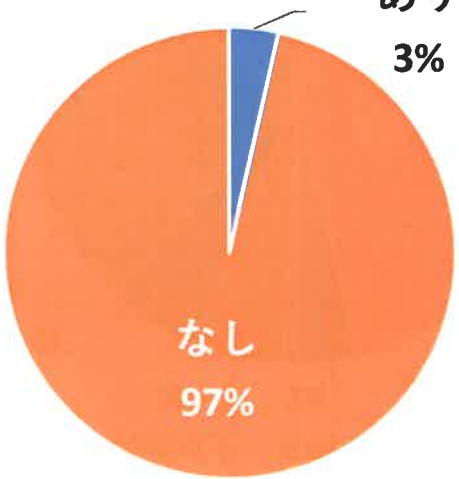


■来場者傾向 TOP 5 （年齢層・性別）

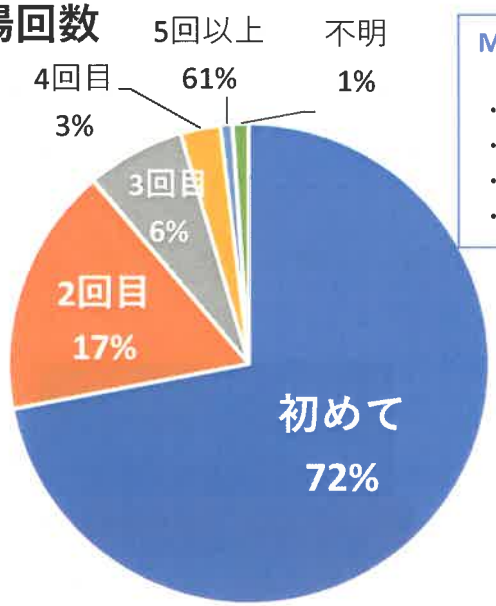


◆来場者分析

■障がいの有無

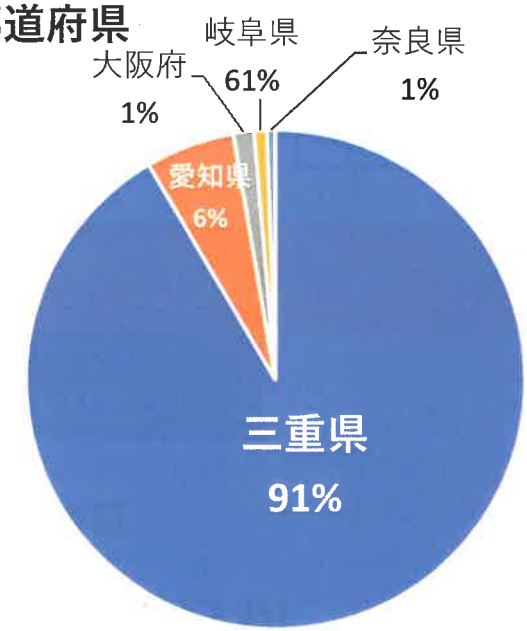


■来場回数

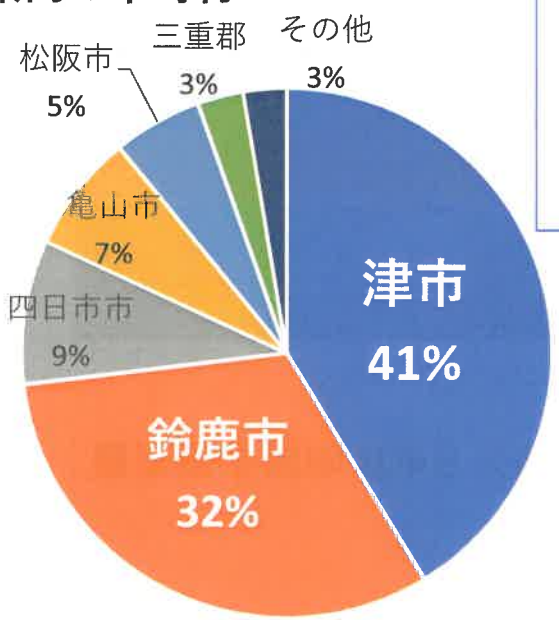


MEMO
（5回以上の内訳）
・5回目：2名
・6回目：1名
・10回目：1名
・14回目：2名

■都道府県



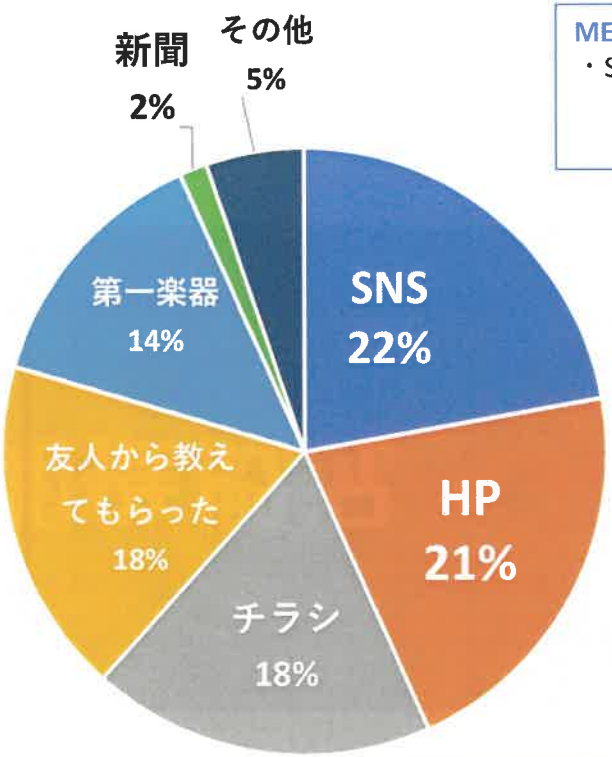
■県内の市町村



MEMO
（その他の内訳）
・名張市：7名
・桑名市：5名
・いなべ市：2名
・伊勢市：2名
・尾鷲市：1名
・不明：1名

◆来場者分析

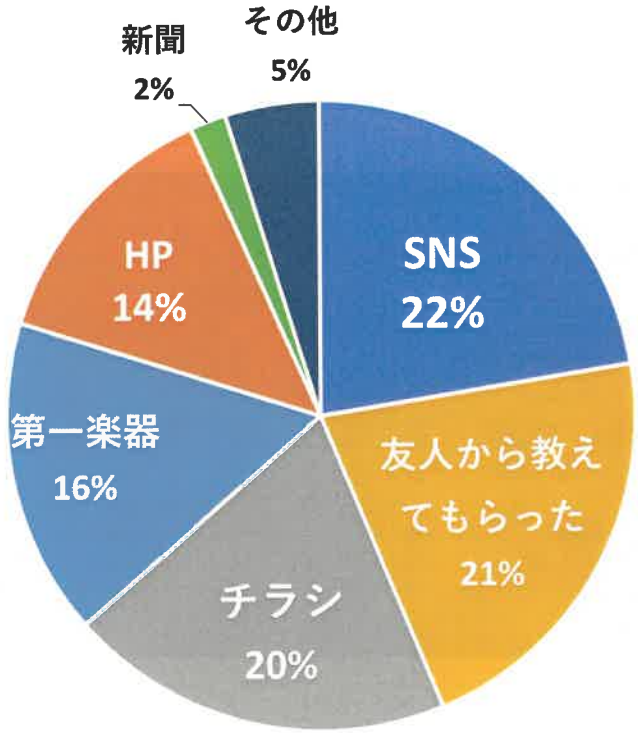
■知ったきっかけ



MEMO.2
・SNSにはLINE（9件）を含む

MEMO.1（その他の内訳）
・たまたま：14名
・エルカバージョ：4名
・雑誌：3名
・ヤマハシースタイル：2名
・不明：16名

■知ったきっかけ（初めての人）



MEMO（その他の内訳）
・たまたま：13名
・雑誌：3名
・ヤマハシースタイル：2名
・エルカバージョ：1名
・不明：7名

①開催実績

②開催概況

③お客様の声

◆開催概要　両日で開催されたイベント内容

1. 開会
2. ハンザ乗船体験
3. シーカヤック操船体験
4. ボート・ヨット乗船体験
5. ハウスボート乗船体験
6. 海の運動会
7. 水辺の安全教室
8. ボートペインティング
9. ボッチャ体験
10. バリフリミュージック
11. 海ピアノ
12. ピアノコンサート・エレクトーン演奏
13. 即売会・出店
14. パネル展・クラフト体験

◆メディア

開催概況トップへ

◆開催概況

開会

両日とも、天候に恵まれ、定刻の開場となりました。

開催概況トップへ

◆開催概況

ハンザ乗船体験

片手で船体中央のスティックで舵をとり、片手で帆の張りを調整するロープを引いたり弛めたりして操作する１～２人用の小型ヨット、アクセスディンギーに乗ってもらう(操船してもらう)体験。全８艇を出して行いました。

はじめての人にはセイラビリティメンバーがついて、二人乗りでマリーナ港内を周遊。経験者、２回目の参加者で、希望する人には１人で乗船してもらうスタイルで 乗船時間はおよそ15分程度。

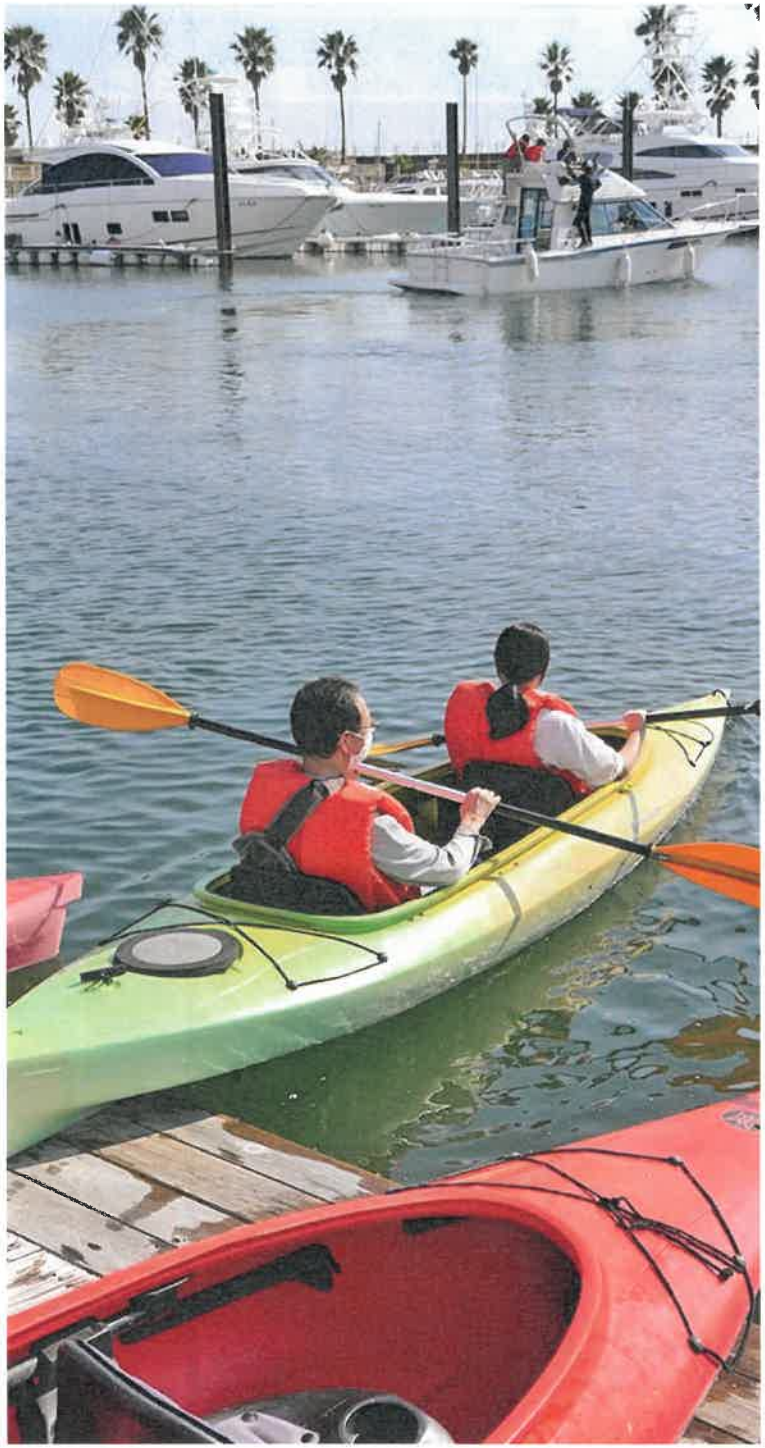
小さな子どもでも、お年寄りでも、誰でも乗ることができるということと、２人乗りもできるので不安な人はサポートに乗ってもらえるという安心感からか、幅広い世代の人に気軽に乗っていただけました。また年々認知度が上がり、去年からのリピーターに加え初参加の人も多く訪れてくれているようです。

ハンザ乗船体験

開催概況トップへ

ハンザ乗船体験

開催概況トップへ



開催概況トップへ

◆開催概況

シーカヤック乗船体験

シーカヤックを10艇用意、マリーナ河芸港内のパドリングを自由に楽しんでもらいました。

操船が容易なことで幅広い年齢層の方に乗っていただけ、また乗船時間の融通が効くため、１クルーズ30分ほどの時間待ちとなるボートやヨットの体験乗船の合間に乗られる方もあり、多くのご利用をいただきました。

開催概況トップへ

シーカヤック乗船体験

シーカヤック乗船体験

開催概況トップへ

開催概況トップへ

◆開催概況

ボート・ヨット乗船体験

大型クルーザーおよび、クルーザーヨットをスタッフが操縦し、船体後部に乗船いただいて河芸の海を航行。マリーナの外に出て岸沿いにクルージングを行いました。

サイズが大きく、動きもゆったりしているところから、船や水上に抵抗のある障がい者の方にも安心して乗っていただけたと感じています。

一度乗った後に複数回乗船を希望する人も多くおり、潮風の心地よさ、海上を船で進む楽しさを体感してもらえたと思います。

ボート・ヨット乗船体験（ボート）

開催概況トップへ

開催概況トップへ

ボート・ヨット乗船体験（ヨット）

開催概況トップへ

◆開催概況

ハウスボート乗船体験

遊覧船として使われる、フラットな甲板と屋根、二階を持つハウスボートでクルージングを体験してもらいました。

甲板の高さが桟橋とほぼ同じで段差がないため、車いすごと乗船していただくことが可能、屋根があることで小雨の中でも安心して乗船いただけました。

また、多人数の乗船が可能なため、特に知的障がいの方たちが多数の仲間たちと一緒に乗船でき、不安なく海上遊覧を楽しんでいただけました。

開催概況トップへ

ハウスボート乗船体験

開催概況トップへ

◆開催概況

海の運動会

マリーナ河芸の体験学習のひとつ「海の運動会」のダイジェスト版を毎年「海のバリアフリーまつり」にて開催。「海の運動会」では、いかだレース、カヤックレース、綱引き、玉入れ、パン食い競争などのプログラムを用意し、人気のイベントです。
今年はカヤックで行う玉入れをセレクト、玉入れの標的にはクリアカヤックを準備し、動く標的とした新企画を取り入れ、参加者のみなさんは海上での競技の難しさを体感し、大いに盛り上がりました。

玉入れ競争

標的（鬼）のクリアカヤック

開催概況トップへ

海の運動会 玉入れ競争

開催概況トップへ

◆開催概況

水辺の安全教室　（ B&Gかわげ海洋クラブ）

「危険だから」と水辺から遠ざけるのではなく、子供たち自身が「自分の命は自分で守る」意識と技能を身につけてもらいたい、教育的効果の高い自然体験活動に興味を持ち、安全に楽しく水辺で遊び、活動してもらいたい。そんな思いのもと、B&G財団では「水辺の安全教室」を展開。
海のバリアフリーまつりでは、B&Gかわげ海洋クラブの協力のもと開催されました。

開催概況トップへ

◆開催概況

ボートペインティング

「想像力を働かせてボートに色とりどりの絵を描いてみよう！」をキャッチフレーズに、本物の船に自由に絵が描けるライブペインティングイベントを開催しました。
大きな船のキャンパスにふんだんに絵具を使い、自由に表現していただきました。

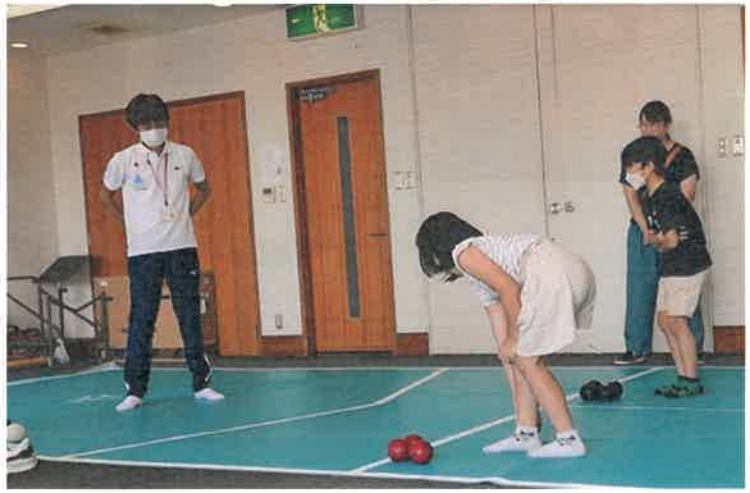
開催概況トップへ

◆開催概況

ボッチャ体験

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ６球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。



開催概況トップへ

◆開催概況

バリフリミュージック

NPO法人「おとのわ」による音楽イベントプロデュース

三重県内の高等学校・吹奏楽部の皆さんに演奏会を開催していただきました。

開催概況トップへ

ブラスバンド演奏

開催概況トップへ

◆開催概況

海ピアノ

ピアノをもっともっと身近に感じて欲しい。自由に楽しんで欲しい。そんな思いから誰もが自由に演奏できるピアノを設置しました。お子様から大人まで自由に演奏を楽しんでいただきました。

開催概況トップへ

◆開催概況

ピアノコンサート・エレクトーン演奏

難聴のピアニスト・藤田典人さんによるピアノコンサートを開催。耳の不自由な方とのコミュニケーションの取り方のお話と演奏を披露されました。
屋外では子供たちがエレクトーン演奏を披露しました。

開催概況トップへ

◆開催概況

即売会・出店

クラブハウス前で、授産事業団体による手芸品、工芸品の販売、乗船受付通路には海上保安庁による警備と出展、また施設内にて福祉車両の展示、キッチンカーが出店されました。

開催概況トップへ

◆開催概況

パネル展・クラフト体験

人通りの多いクラブハウス中央に、海のバリアフリーまつりヒストリー、セイラビリティ活動紹介や入会申込書を配置し、活動のPRを実施。

また、マリーナ河芸で開催のカルチャースクールからも講師が参加し親子で楽しめるハンドクラフトイベントを開催しました。

開催概況トップへ

◆開催概況

来場者の導引・救護対応・巡回

来場者はまず総合受付にて受付を行います。会場案内、乗船・操船体験の受付手順を説明します。

乗船、操船体験では、万一の事故に備え、再度乗船受付を行いました。

乗船受付を終えた後は救命胴衣を着用し、体験者は桟橋をくぐります。

救護対応として、会場の一角に救護室を設け、看護士が待機、海上保安庁、津消防署および津警察署の協力をいただき、定期的に会場内を巡回し、安全に備えました。

開催概況トップへ

◆開催概況

コロナウィルス感染防止対策

開催案内チラシへのコロナ対策及び受け入れ体制の記載をはじめ、会場入口、来場受付に体温測定器、消毒液を設置。各種イベント受付にも消毒液を設置し、操船体験後はハンザ、ディンギーの消毒を行い、感染症対策を実施しました。

告知チラシへの掲載内容

ご来場いただく皆さまへのお願い

事前に厚生労働省「新型コロナウィルス接触アプリ(COCOA)」のインストールをお願いします。
また、イベント会場において「安心みえるLINE」のQRコードを読み込んでいただくようお願いします。
コロナウイルス感染予防対策としてマスク着用、手指消毒、検温などご協力をお願いいたします。
下記のケースに当てはまる場合は参加をお控え下さい

- 2週間以内に37、5℃以上の発熱や咳等の症状がみられる方
- 2週間以内に上記と同じ症状がある人と接触歴がある方
- 2週間以内に法務省・厚生労働省が定める諸外国への渡航並びに当該在住者との接触歴がある方

開催概況トップへ

◆メディア

イベントパンフレット〈PDF〉

・第15回バリアフリーまつり告知チラシ

新聞

・中日新聞

・中部経済新聞

・三重タイムス

◆ダイジェストムービー

https://youtu.be/hJrk8gAl8Uo

開催概況トップへ

案内パンフレット　表

開催概況トップへ

案内パンフレット　裏

海のバリアフリーまつり 2022

10/1 [SAT]
10/2 [SUN]
10:00 ～ 16:00

入場無料

1日（土曜日）のイベント

バリフリミュージック 13:00～

NPO法人「おとのわ」による音楽とのコラボ

音楽こそバリアフリー。障がいの有無は関係なく音楽を心から楽しもう!

（出演）四日市農芸高等学校吹奏楽部 他

ボートペインティング 13:00～

創造力を働かせてボートに色とりどりの絵を描いてみよう。デザインは君におまかせどんな船ができるかな

2日（日曜日）のイベント

海の運動会 13:00～15:00

シーカヤックに乗って、海の上で玉入れ競争など、陸上での運動会とはひと味違ったスリルと楽しさ、そして涼しさが味わえます。

（オープニングアクト） 第一楽器キッズダンスチームによるパフォーマンス

お問い合わせ先

海のバリアフリーまつり 実行委員会事務局

TEL 059-245-5001　FAX 059-245-5002

マリーナ河芸内　NPO法人「海の達人」

〒510-0303　三重県津市河芸町東千里854-3

※ご来場には公共交通機関をご利用下さい。

1日・2日共通のイベント

ハンザ（小型ヨット）体験

ハンディキャップがあっても、小さな子でもお年寄りの方でも操船できる免許不要のヨット。ほとんど転覆しない安全な船なのでぜひ気軽に乗ってみて。

ハウスボート乗船体験

フラットな構造で車いすごと乗れるハウスボートで海に出よう!

ボート・ヨット乗船体験・シーカヤック体験

ボッチャ体験

ヨーロッパ生まれのパラリンピック正式種目。上から投げても下から投げても蹴ってもいいすべての人が一緒に競い合えるスポーツです。

● **「B&Gかわげ海洋クラブ」水辺の安全教室**

安全に楽しく水辺で遊ぶために知ってもらいたい事を紙芝居を使ってご紹介します。

藤田典人ピアノコンサート 13:00～

難聴のピアニスト。耳の不自由な方とのコミュニケーションの取り方のお話と演奏～

海ピアノ

海辺に設置されたピアノ。上手下手関わず「誰もが自由に弾けるピアノ」空と海と音楽を気持ちよく楽しもう♪

クラフト体験　パステル画やクラフトテープなど

販売・展示コーナー

● **展示・即売会**

セイラビリティAJUのメンバーがつくる「ピア名古屋」のワインをはじめ、三重県・愛知県内の作業所の木工・手芸作品などを展示・販売します。

● **出展コーナー／バリフリグッズ展示**

福祉車両などの福祉器具を出展するコーナーと、多彩なバリアフリーグッズを展示紹介するブースを設置。

乗船・他各種体験について

- 体験をされる方は受付が必要になります。受付方法については「特設サイト」をご参照ください。
- 障がい者団体の予約を優先的にお受けいたします。
- イベント実施の可否はイベント前日の夕方頃に「特設サイト」にて発表いたします。
- イベント内容は予告なく変更になることがございます。

ご来場いただく皆さまへのお願い

事前に厚生労働省「新型コロナウィルス接触アプリ（COCOA）」のインストールをお願いします。また、イベント会場において「安心みえるLINE」のQRコードを読み込んでいただくようお願いします。

コロナウイルス感染予防対策としてマスク着用、手指消毒、検温などご協力をお願いいたします。

下記のケースに当てはまる場合は参加をお控え下さい

- 2週間以内に37.5℃以上の発熱や咳等の症状がみられる方
- 2週間以内に上記と同じ症状がある人と接触歴がある方
- 2週間以内に法務省・厚生労働省が定める諸外国への渡航並びに当該在住者との接触歴がある方

NPO法人「海の達人」に参加しませんか

NPO法人海の達人では、海の楽しさ・素晴らしさを共に伝える「Masters登録」、ハンザでセーリングを楽しむ「セイラビリティ河芸&AJU」、ボランティアスタッフなど、各種会員&スタッフを随時募集中。海が好きな方、マリンスポーツに興味のある方は、ぜひ一度お問い合わせください!!

mail：masters@umi-tatsujin.net

セイラビリティ活動

障がい者のためのセーリング支援活動としてイギリスでスタート。自分自身でヨットを操作することを通じ、障がい者をはじめ、子ども、高齢者の自立心と自信を生み出すことができると評価を得てきました。三重の海のよさを再認識してもらいたい、また障がい者を含む青少年、子ども、高齢者が楽しく活動できる場を作りたいという思いからマリンスポーツを愛する仲間たちが集結。伊勢、津、河芸に活動拠点を置き、入会や参加はどの拠点からでも可能です。

中日新聞９月14日号

開催概況トップへ

マリンスポーツを楽しむ人でにぎわう昨年の「海のバリアフリーまつり」の様子＝津市河芸町東千里のマリーナ河芸で

マリンスポーツで「まつり」楽しもう

河芸できょうあす

障害者と健常者がともにマリンスポーツなどを楽しむ「海のバリアフリーまつり」が十四、十五の両日、津市河芸町東千里のマリーナ河芸で開かれる。

マリンスポーツの普及に取り組むＮＰＯ法人「海の達人」の主催。会場では、ヨット、ボートの乗船体験や、障害者でも乗りやすい小型ヨット「アクセスディンギー」の操船体験などができる。

四日市農芸高吹奏楽部による演奏やカヤックに乗ってのパン食い競走、玉入れなどユニークな競技が楽しめる「海の運動会」もある。服部正樹理事長(七〇)は「経験豊かなスタッフがサポートするので、海との正しい付き合い方を学び、一緒に楽しんでもらえたら」と呼びかける。

開催は両日とも午前十時～午後四時。雨天の場合は翌週に順延する。問実行委員会事務局＝０５９（２４５）５００１

中部経済新聞　2022.9.22号

安全にマリンスポーツ体感

海の達人 来月「海のバリアフリーまつり」

NPO法人の海の達人（津市）は10月1、2の両日、津市河芸町のマリーナ河芸で、「第15回海のバリアフリーまつり」を開催する。入場無料。障害の有無や年齢に関係なく、安全に楽しくマリンスポーツを体感できる。

車いすごと乗れるハウスボートやヨット、ボートの乗船や、安全な小型ヨット「ハンザ」とシーカヤックの操船を体験できる。

初日には「バリフリミュージック」とボートペインティング、2日目には海の運動会も実施する。また、ボッチャやクラフト体験、「B&Gかわげ海洋クラブ」水辺の安全教室なども行われる。

同法人は、子どもや青少年、住民らの海に関する活動を通じ、自然に親しみ、健やかに暮らせる地域社会作りや、スポーツの振興に取り組んでいる。

三重タイムズ　2022.9.30号

開催概況トップへ

第15回海のバリアフリーまつり　を楽しむ「海のバリアフリーまつり」を開催する。参加無料。

10月1日・2日にマリーナ河芸

「気持ちいい海、体感しませんか」と、特定非営利法人海の達人（津市河芸町東千里マリーナ河芸内、服部正樹理事長）が10月1日（土）・2日（日）午前10時～午後4時、津市河芸町東千里のマリーナ河芸で障がい者と健常者が一緒に海

中日新聞　2022.10.2号

開催概況トップへ

マリンレジャー楽しむ

津で「海のバリアフリーまつり」

障害の有無にかかわらずマリンレジャーを楽しめるイベント「海のバリアフリーまつり」（中日新聞社など後援）が一日、津市河芸町東千里のマリーナ河芸で始まった。二日まで。

来場者は「ハンザ」と呼ばれる操縦が容易で転覆しにくい小型ヨットや、車いすのまま乗船できる「ハウスボート」、パドルでこぎ進むシーカヤックなどに乗船。風や波に気持ちよさそうに揺られていた。

小学生の息子二人を連れ、車いすで訪れた倉田大輔さん(四三)＝亀山市小川町＝は「足が不自由なので普段はあまり子どもたちと遊べないが、ここでは一緒に船に乗って楽しめる」と笑顔を見せた。

会場では、障害者就労支援施設で作られた手芸品が販売され、パラスポーツ「ボッチャ」も体験できる。

イベントはマリンスポーツの普及に取り組む津市のNPO法人「海の達人」が主催し、十五回目。実行委員長の落合健介さん(四九)は「海に親しむ機会にしていただきたい」と来場を呼びかけている。（横田浩紀）

ハンザに乗って海上を進む来場者ら＝津市河芸町東千里のマリーナ河芸で

三重タイムズ　2022.10.14号

「気持ちいい海、体感!!」

第15回海のバリアフリーまつり マリーナ河芸

「気持ちいい海、体感しませんか」と、3年ぶりに「第15回海のバリアフリーまつり」が2日（日）午前10時～午後4時、津市河芸町東千里のマリーナ河芸で開かれた。好天に恵まれ多くの市民が海とのふれあいを楽しんだ。特定非営利法人海の達人（津市河芸町東千里マリーナ河芸内、服部正樹理事長）。

この祭りは障がい者と健常者が一緒に海を楽しむとともに、海の世界のバリアフリー化をアピールするのが目的。

ヨット、ボート、ハウスボートに乗ってクルージング体験では、参加者は初めての体験に歓声を上げていた。港内のハンザ（小型ヨット）、カヤックの操船体験は、最初はこわごわと乗っていた人も指導員のかけ声で、動き出すと帆を操り、オールを漕いで楽しんだ。

販売・展示コーナーではセイラビリティAJUのメンバーがつくるワイン、県内作業所の木工、手芸品が販売され、手に取る人が多かった。

マリーナ河芸を運営する（株）ダイイチの落合健介専務取締役は「海は好奇心を育て、多くの出会い、発見、を手に入れる絶好のフィールドです。バリアフリーマリーナで誰でも安全に〝気持ちいい海〟を、ぜひ体感していただきたい」と話していた。

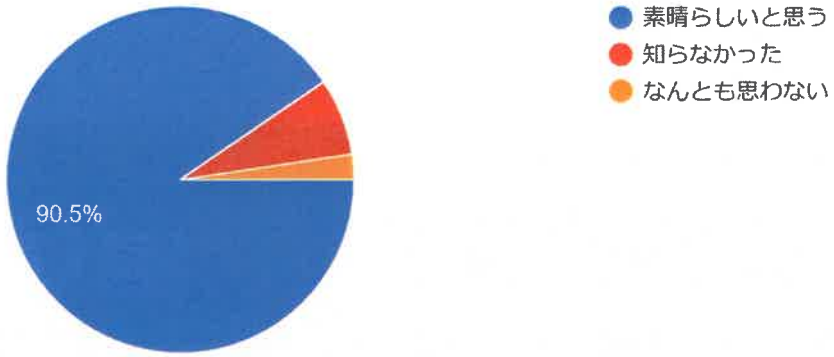
問い合わせはマリーナ河芸＝電話059（245）5001、ファクス（245）5002。

①開催実績
②開催概要
③お客様の声

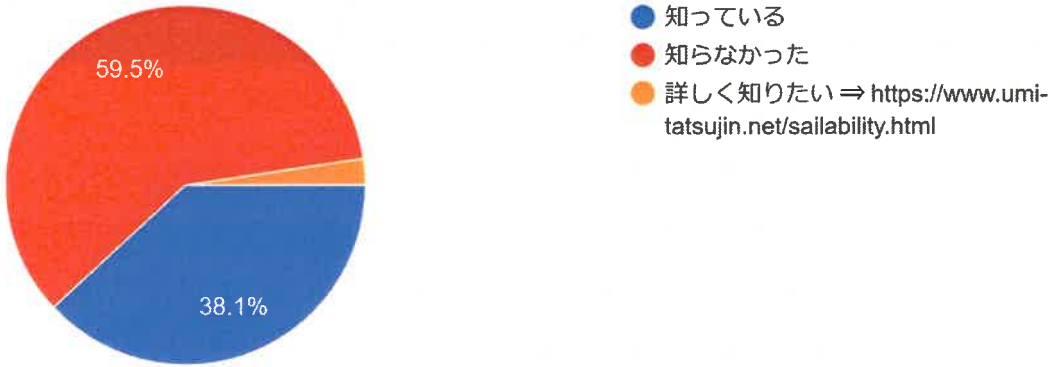
◆お客様の声

イベント実施後、参加者の方にWebアンケートを実施しました。

バリアフリーまつりは、
障がい者と健常者が共に楽しでいただけるイベント…したが、そのことについてどう思われますか？
42 件の回答



障がいをお持ちの方でも参加していただけるヨットの活動についてご存知ですか？
42 件の回答



◆お客様の声

バリアフリーまつり の趣旨に関してご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。 14 件の回答

・なかなか車椅子で船やヨットに乗れる機会がないのでとても有難いです。

・素晴らしい機会だと思っています

・普段体験の出来ないことをいくつも体験出来て幼児も小学生も私たち親も家族皆がとても楽しく過ごせました。今後も同様の体験があればぜひ参加したいです。食事が子ども向けの料理がほとんどなくて困ったので子ども向けのメニューが欲しいです。

・障がい者と健常者ふれあう機会少ないので、とても良い取り組みだと思います。もっとこの様な機会があるとバリアフリー（障がい者思いの施設）が増えていくと考えます。

・本来なら、日常的にバリアフリーでなければいけないのだろうけれど、実現が難しいのが現在です。 しかし、このように、いろいろな方々に力を貸してもらって、みんなで楽しめることって、素晴らしいなぁぁ！！！と感謝の気持ちでいっぱいです。 いつも本当にありがとうございます。

・障害者の方も楽しめる内容になっていて素晴らしいと思います。また無料というのがとても有難いです。普通だと家族みんなで結構な料金になるので、子供たちに良い経験をさせてあげることができて嬉しい

・80歳の母親と初めてクルーザーに乗せて頂きました。本当に気持ち良くて、今度はヨットに乗りたいと言っています。来年、また乗れるように元気でおらんとなと言っています。 高齢になると、なかなか楽しみや目標が少なくなりがちです。 そんな中、こうやって乗せて頂いて本当に刺激になりました。ありがとうございました！

・きっと障害のある方は、行動範囲的な事も狭くなりがちだと思います。みなさん、うれしそうされていたし、本当に素敵なイベントだと思いました！ こういう機会がもっと増えるといいなと思います😄

◆お客様の声

バリアフリーまつり の趣旨に関してご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。 14 件の回答

・新聞で知りましたが、もっと大きく告知をしても良かったと思います。

・もっと色々乗りたかったです

・マリンスポーツというところがまた魅力的です。

・マリーナ河芸内がけっこう段差がありました。どこかにエレベーターがあったのかな？

・毎年親切に対応してくださりありがとうございます。外からはわかりにくい障害の方も見えるとおもいます、子どもたちにわかり得ない事もあったかもしれないのですが、その方々も気持ちよく参加できていると願っております。

・車椅子でボートに乗る機会はなかなかないので、毎年楽しみにしています。

・小学生の息子と乗船体験に参加させていただきましたが、息子が気になってたことがあったと話してました。 例えば水深とかここでとれる魚、船の速度や値段とかとか、案内だったり説明してもらいながらの乗船だともっと楽しめるのではないかと思いました。

◆お客様の声

その他、 バリアフリーまつり に対してご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。 15 件の回答

・初めて行かせていただきましたが、すごくいいイベントでした。 来年もあればまた行ってみたいです。

・このまま無料で参加できるイベントを続けてほしい・とても楽しい時間をありがとうございました。・毎年楽しみにしてます。

・もう少し車椅子移動しやすい方がいいと思いました。

・朝イチで行きましたがボートに乗ることができませんでした。事前予約制であればボートなども事前予約にした方がいいのかなと思います。並んだ挙句、午後になったので乗りませんでした。

・毎回楽しく参加させて頂いてます。スタッフの方も暖かく、癒されています。 これからも続けて欲しいです！そして、海の運動会、もっと参加できる人数（回数？）を増やしてください！！！もっと名物になったら良いのになぁと思います。私たちも正午くらいにしか着きませんでしたが、同じくらいに来た周りの人、みんな、ガッカリしてました。いつか、参加してみたいです！！よろしくお願いします。

・コロナで久しぶりの開催で嬉しかったです☺　　・デカいサップがなかったので、またやって欲しいです。

・予算とかの関係もあるかもしれませんが、年に2回ぐらいあるといいなと思いました。本当にどんな人でも楽しめる素敵なイベントだと思いました！本当に楽しかったです!!

・船に乗るイベントがとても楽しかったです。

・スタッフの段取りや駐車場警備の対応が今一つでした。そのあたりを改善して頂けるとありがたいです。

・発表会で初めて参加しましたが、ボートやハンザにも初めて子供と一緒に乗る事ができて子供もすごく喜んでいました。

・ボートやヨット体験など貴重な体験ができるので、これからも続いてほしいです。

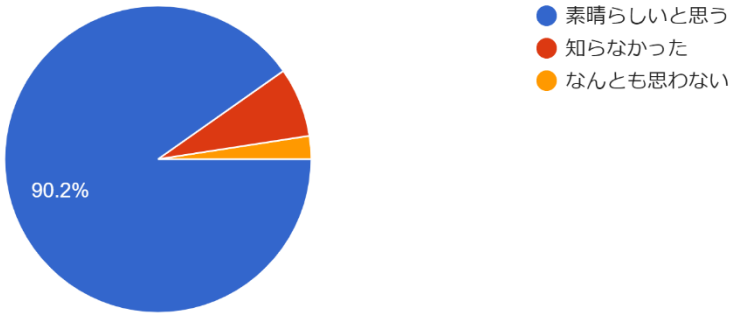
・ハンザに乗る時間が無く乗船体験できなかったのが心残りです。またハンザの乗船体験があれば参加したいです。

今年も多数のご来場・ご出展をいただき、誠にありがとうございました。
「**第16回 海のバリアフリーまつり**」もマリーナ河芸にて開催を予定しています。
来年のご来場もお待ちしております。

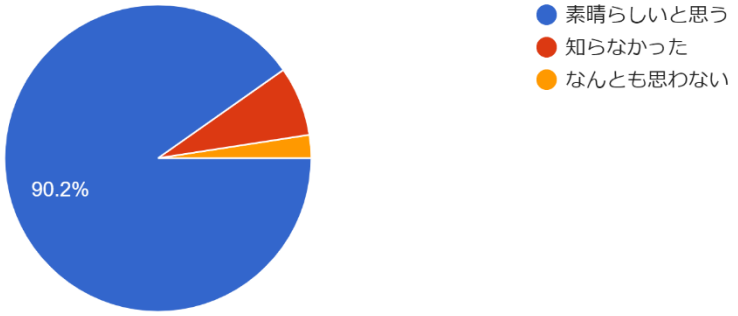
特定非営利活動法人 海の達人

第 15 回バリアフリーまつり・アンケート （集計期間:2022 年 10 月 21 日～28 日）

バリアフリーまつりは、
障がい者と健常者が共に楽しでいただけるイベント…したが、そのことについてどう思われますか？
41 件の回答



バリアフリーまつりは、
障がい者と健常者が共に楽しでいただけるイベント…したが、そのことについてどう思われますか？
41 件の回答

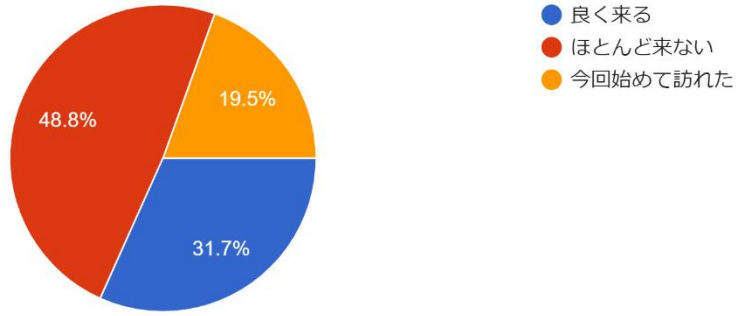


バリアフリーまつり の趣旨に関してご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。14 件の回答

・なかなか車椅子で船やヨットに乗れる機会がないのでとても有難いです。
・素晴らしい機会だと思っています
・普段体験の出来ないことをいくつも体験出来て幼児も小学生も私たち親も家族皆がとても楽しく過ごせました。今後も同様の体験があればぜひ参加したいです。食事が子ども向けの料理がほとんどなくて困ったので子ども向けのメニューが欲しいです。
・障がい者と健常者ふれあう機会少ないので、とても良い取り組みだと思います。もっとこの様な機会があるとバリアフリー（障がい者思いの施設）が増えていくと考えます。

・本来なら、日常的にバリアフリーでなければいけないのだろうけれど、実現が難しいのが現在です。しかし、このように、いろいろな方々に力を貸してもらって、みんなで楽しめることって、素晴らしいなぁぁ！！！と感謝の気持ちでいっぱいです。いつも本当にありがとうございます。
・障害者の方も楽しめる内容になっていて素晴らしいと思います。また無料というのがとても有難いです。普通だと家族みんなで結構な料金になるので、子供たちに良い経験をさせてあげることができて嬉しい
・80 歳の母親と初めてクルーザーに乗せて頂きました。本当に気持ち良くて、今度はヨットに乗りたいと言っています。来年、また乗れるように元気でおらんとなと言っています。高齢になると、なかなか楽しみや目標が少なくなりがちです。そんな中、こうやって乗せて頂いて本当に刺激になりました。ありがとうございました！
・きっと障害のある方は、行動範囲的な事も狭くなりがちだと思います。みなさん、うれしそうされていたし、本当に素敵なイベントだと思いました！ こういう機会がもっと増えるといいなと思います😄
・新聞で知りましたが、もっと大きく告知をしても良かったと思います。
・もっと色々乗りたかったです
・マリンスポーツというところがまた魅力的です。
・マリーナ河芸内がけっこう段差がありました。どこかにエレベーターがあったのかな？
・毎年親切に対応してくださりありがとうございます。外からはわかりにくい障害の方も見えるとおもいます、子どもたちにわかり得ない事もあったかもしれないのですが、その方々も気持ちよく参加できていると願っております。
・車椅子でボートに乗る機会はなかなかないので、毎年楽しみにしています。
・小学生の息子と乗船体験に参加させていただきましたが、息子が気になってたことがあったと話してました。例えば水深とかここでとれる魚、船の速度や値段とかとか、案内だったり説明してもらいながらの乗船だともっと楽しめるのではないかと思いました。

マリーナ河芸にお越しいただいたことはありましたか？
41 件の回答

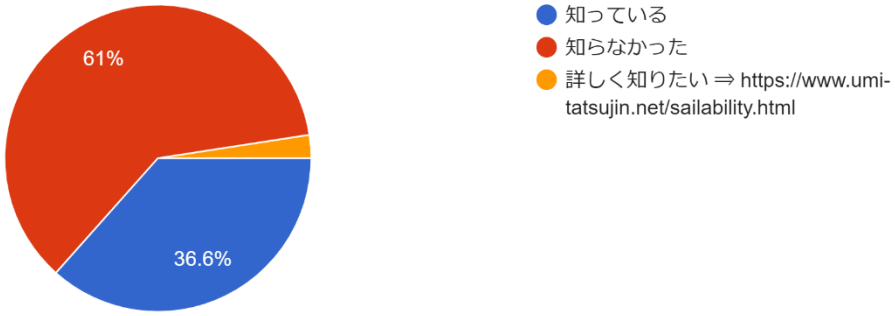


マリーナ河芸には何を目的にお越しいただきましたか？ 27 件の回答

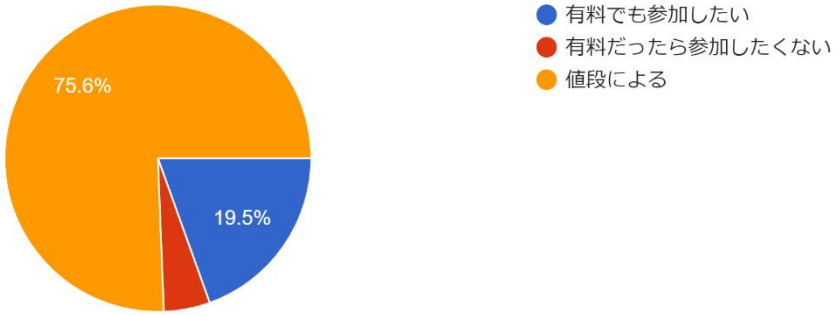
・乗馬体験
・海
・海のバリアフリーまつり
・今回のイベント
・船

・海を眺めに
・祭りと海を見に来ました。
・海の運動会に参加するため。しかし、4 回目の申し込みチャレンジですが今回も申し込みできず…でした
・釣り、海水浴
・海のバリアフリーまつりに参加する為
・素敵な景色や海を見に行ったり、マーメイドのランチを楽しみに行っています。本当に手が込んでいて、おいしくて幸せになります！ロケーションもなんちゃってセレブになれますしね(笑)
・自転車教室
・マリンスポーツ
・乗船体験
・イベント
・磯遊び
・海をみに
・ピアノの発表会
・プレジャーボート体験
・海が見たいときなどに散歩
・ランチ、お月見カヤック
・海を見に
・パステル画をやりたかった為
・バリアフリーまつり
・散歩
・散歩、海遊び

障がいをお持ちの方でも参加していただけるヨットの活動についてご存知ですか？
41 件の回答



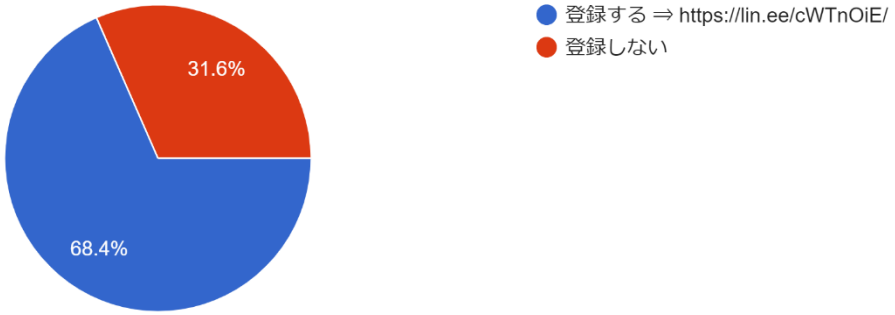
バリアフリーまつりは、今まで無料のイベントとし...、今後有料化されてもご参加いただけますか？
41 件の回答



その他、バリアフリーまつり に対してご意見・ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。15 件の回答

・初めて行かせていただきましたが、すごくいいイベントでした。 来年もあればまた行ってみたいです。
・このまま無料で参加できるイベントを続けてほしい
・とても楽しい時間をありがとうございました。
・もう少し車椅子移動しやすい方がいいと思いました。
・朝イチで行きましたがボートに乗ることができませんでした。事前予約制であればボートなども事前予約にした方がいいのかなと思います。並んだ挙句、午後になったので乗りませんでした。
・毎回楽しく参加させて頂いてます。スタッフの方も暖かく、癒されています。 これからも続けて欲しいです！そして、海の運動会、もっと参加できる人数（回数？）を増やしてください！！！もっと名物になったら良いのになぁと思います。私たちも正午くらいにしか着きませんでしたが、同じくらいに来た周りの人、みんな、ガッカリしてました。いつか、参加してみたいです！！よろしくお願いします。
・コロナで久しぶりの開催で嬉しかったです😊
・デカいサップがなかったので、またやって欲しいです。
・予算とかの関係もあるかもしれませんが、年に 2 回ぐらいあるといいなと思いました。本当にどんな人でも楽しめる素敵なイベントだと思いました！本当に楽しかったです‼
・船に乗るイベントがとても楽しかったです
・スタッフの段取りや駐車場警備の対応が今一つでした。そのあたりを改善して頂けるとありがたいです。
・毎年楽しみにしてます
・発表会で初めて参加しましたが、ボートやハンザにも初めて子供と一緒に乗る事ができて子供もすごく喜んでいました。
・ボートやヨット体験など貴重な体験ができるので、これからも続いてほしいです。
・ハンザに乗る時間が無く乗船体験できなかったのが心残りです。またハンザの乗船体験があれば参加したいです。

【アンケートキャンペーン】 LINE公式アカウン...ポン〕をもれなくプレゼント！！ ★初回登録時のみ
38 件の回答



★LINE 登録者数：８人 （キャンペーン期間：2022 年 10 月 21 日～23 日）

セイラビリティ河芸＆ＡＪＵ

三重に広がる活動の輪と仲間の輪

セイラビリティ三重は、三重県を中心に年齢や障がいの有無に関係なく、だれもが一緒に楽しめるユニバーサルデザインの小型ヨット「ハンザ」を使ったセイラビリティ活動をしています。

マリンスポーツを通じて三重の海のよさを再認識してもらいたいという思いと、障がい者を含む青少年、子ども、高齢者が楽しく活動できる場を作りたいという思いからマリンスポーツを愛する仲間たちが集結。2002年にセイラビリティ伊勢、2006年にセイラビリティ津、そして2007年にセイラビリティ河芸＆AJUが発足。伊勢湾内をフィールドに、活動の輪を広げています。

それぞれの拠点での活動に加え、互いに交流、協力関係を結んでいます。３ヶ所どこの会員になっても互いに伊勢、津、河芸の練習会、乗艇会に参加ＯＫ。一緒に海を楽しみましょう。

年 会 費	10,000円 ※ご家族でご入会の場合は、１家族10,000円でご入会いただけます。
活 動 日	第2日曜・第４土曜日
活動内容	練習会・乗艇会・ヨットレースへの参加

車いす対応トイレ完備

セイラビリティ活動

誰もが自由なセイリングを楽しむ

Sailing for everyone（みんなのためのセーリング）の理念のもと、障がい者も健常者も一緒になってマリンスポーツに親しむ活動がセイラビリティです。

楽しく、安全でお金をかけずに、誰もがセーリングを楽しむ活動としてイギリスで始まり世界各国に広がっており、日本では２０００年から始まり、２０１２年現在国内３５ヶ所の拠点で展開され、年ごとに海外や県内外の仲間たちとの交流・ふれあいの輪に広がっています。

体 験 試 乗 会

セイラビリティでの活動日にはアクセスディンギーに乗ってもらう（操船してもらう）体験もできます。そのほか、河芸の海のバリアフリーまつりなどで、ハンザ体験試乗会も実施しています。

クルーザー部会のご紹介

メンバー募集

セイラビリティ河芸＆AJUに入会していただくと、特典としてセーリング技術の向上のためクルーザーでの練習に参加していただけます。現在Ｙ23を使って午前中は技術習得、午後は模擬レースで技量を磨いています。10月のY23ワンデザインヨットレース出場をめざして練習しています。ベテランセーラーが懇切丁寧に指導していますので初心者大歓迎です。

活動日	４月から10月の第１・３・５土曜　9:00～17:00
活動費	１回1,000円（学生以下無料）

ハンザ

タイプ2.3は、長さ2.3m・幅1.2mで２人が前を向いた状態で横に並んで座れます。

セイラビリティ河芸＆ＡＪＵ

www.umi-tatsujin.net/sailability.html　TEL 059-245-5001（NPO法人 海の達人〔マリーナ河芸内〕）

セイラビリティ河芸＆ＡＪＵ

入会申し込み用紙

令和　　年　　月　　日

フリガナ		性　別	生　年　月　日	年　齢
代表者 氏　　名		男・女	大正 昭和 平成　　年　　月　　日	
住　　所	〒			
電話番号	自　宅		携　帯	
ＦＡＸ番号				
e-mail	メールアドレスをお持ちの方は会員専用メーリングリストに登録させていただきます。 詳細は後日メールにてご案内申し上げます。			
ご　家　族　会　員				
フリガナ		性　別	生　年　月　日	年　齢
氏　　名		男・女	大正 昭和 平成　　年　　月　　日	
フリガナ		性　別	生　年　月　日	年　齢
氏　　名		男・女	大正 昭和 平成　　年　　月　　日	
フリガナ		性　別	生　年　月　日	年　齢
氏　　名		男・女	大正 昭和 平成　　年　　月　　日	
フリガナ		性　別	生　年　月　日	年　齢
氏　　名		男・女	大正 昭和 平成　　年　　月　　日	
障　が　い　内　容				
障がいのある方は障がい内容をご記入ください。				

お申込み先：セイラビリティ河芸＆ＡＪＵ　　FAX 059-245-5002

新築・増改築のことなら
ワコーホーム
津市殿舟 ☎059-237-4488
見積無料

イメージキャラ 男性起用

伊勢鉄道が「鉄道きょうだい」

それぞれの愛称募集始める

定でイメージキャラクター「鉄道きょうだい」をつくった。鉄道業界では珍しい男性キャラクターい考えだ。それぞれの愛称の募集を1日から始めた。（片山健生）

技術系職員の弟

乗務員の兄

同社の営業路線が九月、国鉄時代から数えて開通五十年目に入ったことを記念した取り組み。キャラクターは兄が乗務員、弟が技術系職員との設定で、職場で実際に使われている制服と制帽、作業着とヘルメットをそれぞれ身にまとっている。デザインは、絵の心得がある県内在住の長尾愛さんに依頼した。

鉄道ファンは男性が大半。PR目的で男性のキャラクターを設ける事例はまれで、同社によると、三陸鉄道（岩手県宮古市）の「鉄道ダンシ」くらいという。伊勢鉄道の担当者は「キャラクターをきっかけに、鉄道好きの子を持つ母親など女性にも広く興味を持ってもらいたい」と期待している。

既に駅構内などに掲示している新型コロナウイルス対策のポスターに登場させたほか、今後、宣伝のための配布物などにも活用する。

兄弟の各愛称と、そこに込めた思いを書き、応募者の名前、住所、年齢、電話番号を添えて同社に十一月三十日までに送る。はがきなら鈴鹿市桜島一の二〇、電子メールなら name2022@isetetu.co.jp へ。愛称は応募一件につき、兄弟セットで四つまで。採用された人には記念品が贈られる。問伊勢鉄道＝059（383）2112

マリンレジャー楽しむ

津で「海のバリアフリーまつり」

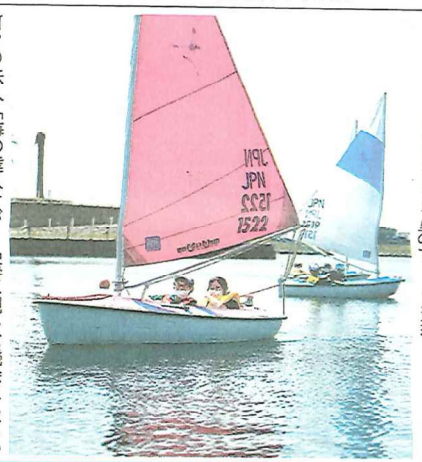
障害の有無にかかわらずマリンレジャーを楽しめるイベント「海のバリアフリーまつり」（中日新聞社など後援）が一日、津市河芸町東千里のマリーナ河芸で始まった。二日まで。

来場者は「ハンザ」と呼ばれる操縦が容易で転覆しにくい小型ヨットや、車いすのまま乗船できる「ハウスボート」、パドルでこぎ進むシーカヤックなどに乗船。風や波に気持ちよさそうに揺られていた。

小学生の息子二人を連れ、車いすで訪れた倉田大輔さん(四三)＝亀山市小川町＝は「足が不自由なので普段はあまり子どもたちと遊べないが、ここでは一緒に船に乗って楽しめる」と笑顔を見せた。

会場では、障害者就労支援施設で作られた手芸品が販売され、パラスポーツ「ボッチャ」も体験できる。

イベントはマリンスポーツの普及に取り組む津市のNPO法人「海の達人」が主催し、十五回目。実行委員長の落合健介さん(四七)は「海に親しむ機会にしていただきたい」と来場を呼びかけている。（横田浩熙）



ハンザに乗って海上を進む来場者＝津市河芸町東千里のマリーナ河芸で

中部日本吹奏楽コンクール本大会

中日賞に四日市・南中

中部九県の中高生が集う「第六十五回中部日本吹奏楽コンクール本大会」（中部日本吹奏楽連盟、中日新聞社主催）が一日、福井市の福井県立音楽堂ハーモニーホールふくいで始まった。二日まで。

新型コロナウイルス感染拡大の影響で一昨年の大会は中止。昨年は無観客で開かれたが、今年は三年ぶりに観客が入っての開催となった。各県の大会で代表に選ばれた五十校が出場。コロナ禍で部活動の制限がある中で生徒たちは練習の成果を発揮。息の合った音色を響かせ、迫力ある演奏を披露し観客から大きな拍手を浴びた。

中学大編成の部で中日新聞社賞の四日市市南中＝福井市のハーモニーホールふくいで

県代表は高校小編成の部に出場した白子高（鈴鹿市）が銀賞、中学大編成の部に出場した四日市市南中が二位の中日新聞社賞、四日市市内部中が銀賞を受賞した。

最終日の二日は、中学小編成の部と高校大編成の部がある。

ふじや本店
光倫会館
心をつなぐ
家族葬
事前相談 毎日開催
四日市光倫会館（桜・富田）
0120-114248
津光倫会館
0120-248317

リニューアル工事でブックラウンジ新設

四日市の温泉施設

四日市市智積町の温泉施設「ゆうゆう会館」が一日、八月から進めていた改装工事を終えリニューアルした。ブックラウンジなどを新設し、利用者数の増加を狙う。

同施設は利用者の大半が年配層だったが、長引くコロナ禍の影響で客足が伸び悩んでいた。今回、若者も呼び込もうと、ゲームセンターを、よりくつろげる空間に変更した。

リニューアルの目玉はブックラウンジ。一万二千冊の漫画や雑誌が書店のようにびっしりと並び、仕事や勉強ができる「コワーキングスペース」も設けた。

料金も見直し、仕事帰りなどに立ち寄りやすいように午後七時以降、終日利用（一千四百円）の半額で入館